

# かながわ京浜臨海部ニュース 平成28年 3月号

## 今号のINDEX

- ・ 京浜臨海部立地企業のご紹介 体験型見学施設誕生 味の素(株)川崎工場..... p 1
- ・ 第2回「理化学研究所企業版サイエンスカフェ in 横浜」が開催されました ..... p 2
- ・ -最先端医療研究機関- ナノ医療イノベーションセンターのご紹介 ..... p 3
- ・ 羽田空港で次世代型ロボットを導入！広がるロボット活用法！ ..... p 4

## 京浜臨海部立地企業のご紹介

### 体験型見学施設誕生 味の素(株)川崎工場

「かながわ京浜臨海部ニュース」では、京浜臨海部に立地する企業の取組や事業内容についてご紹介しています。

今回ご紹介するのは、川崎市川崎区鈴木町に立地する味の素株式会社川崎工場です。一昨年で生産開始100年を迎えた長い歴史を持つ工場で、昨年5月7日に新たな見学施設として「味の素グループうま味体験館」をオープンしました。

この「味の素グループうま味体験館」の話を中心に、味の素(株)川崎工場の魅力について、広報部岩水一生さん、総務・エリア管理部佐藤信雄さんにお話を伺いました。

#### 体験型施設の魅力について

味の素(株)川崎工場ではどのような商品を生産しているのでしょうか。

「味の素(株)川崎工場では、全部で約1700アイテム程の商品を製造しています。その中でも食品が1000アイテム程になります。家庭用、業務用の調味料の他にも、アミノ酸、香粧品等も生産しています。家庭用で代表的な調味料ですと、「味の素」、「ほんだし」、「Cook Do」等があります。」



代表的な商品  
「Cook Do」  
の回鍋肉

昨年5月にオープンした「味の素グループうま味体験館」について教えてください。

「現在、見学コースは2種類で、「味の素」見学コースと「ほんだし」見学コースがあります。どちらも約90分で体験できるコースになっています。両コースとも360度の4面スクリーンを使って、自然の恵みをおいしさに活かし、うま味が古代から現代の食事を受け継がれていることを紹介するシアター見学から始まります。その後、「味の素」見学コースでは、「味の素」の製造工程がわかるジオラマと巨大な発酵タンクの見学があります。また終盤には、実際に「味の素」を小瓶に封入する体験をしていただけます。クリーンな環境の中で白衣などを着用して、包装工場に出来るだけ近い形で体験していただくことができ、お客様からも好評です。

一方、「ほんだし」見学コースでは、実際の工場の中で「ほんだし」の製造工程を見学していただけます。その中で本格的なかつお節削りに挑戦できます。その後、「ほんだし」を使ったおにぎりを試食してもらい、「ほんだし」のうま味を感じてもらえるコースになっています。」

「味の素グループうま味体験館」を見学される方はどのような年齢層の方が多くいますか。



味の素グループうま味体験館

「平日は、企業の皆様やシニア層の方、また小中学校の社会科見学の方が多いですね。土曜日は家族連れの方も多くなります。見学には事前予約が必要で、個人(10名以下)の場合は、インターネットまたは電話で、11名を超える団体の場合は、電話でご予約を受け付けています。予約に関しては、連日満員に近い状況が続いております。個人の受付に関しては、2ヶ月前の月の初めに予約の受付を開始しますが、おかげ様でその日もしくは翌日に予約が埋まってしまいう状況です。」

## 地域住民との共生を考える

体験施設オープンのきっかけはどのようなものになりますか。

「工場見学を今まで以上に楽しんでいただく。そしてご来場される皆様に味の素㈱のファンになっていただきたいとの思いが強いですね。川崎工場は近隣を住宅街に囲まれ、近年では高層マンション等も増えてきています。そういった中で、一昨年で100周年を迎え、次の100年も、この地で事業を継続させていただくためにも、地域の方にご理解いただき、味の素㈱のファンになっていただくにはどうすれば良いかとの思いから、色々なことを考えてきました。体験施設と同じ敷地内に認可保育園とカフェを誘致させていただいており、待機児童の解消などに少しでも貢献できればと考えております。また、川崎市、警察等とも調整し、住民の方の安全を考えて、敷地内の道路に歩道を設置したり、物流網を移動し、交通量を減らす取組等をさせていただいております。」



最寄り駅の京浜急行大師線鈴木町駅から体験施設まで案内してくれるアジパンダの足跡

神奈川県そして京浜臨海部に立地するメリットがあれば教えてください。

「川崎事業所としてみると、東京・横浜の中間点に位置し、地の利が良いことでしょう。輸送もほとんどトラックで行うことができます。また、殿町のエリアでは、「アミノインデックス・がんリスクスクリーニング」の研究等で弊社も関わりを持たせていただいております。また、「味の素グループうま味体験館」として考えると、この川崎工場が交通の便が良く見学に来られる方にも便利ではないかなと思います。」

最後に読者にメッセージをどうぞ。

「ぜひ一度「味の素グループうま味体験館」にご来場下さい。一度ご来場いただき、見て、知って、体験していただき味の素グループを詳しく知っていただければと思います。ぜひよろしくお願ひします。」

問い合わせ先 / 神奈川県政策局自治振興部地域政策課 大橋 電話：(045)210-3255  
味の素㈱川崎工場のホームページはこちら <https://www.ajinomoto.co.jp/kfb/kengaku/kawasaki/>

## 第2回「理化学研究所企業版サイエンスカフェ in 横浜」が開催されました

京浜臨海部に立地する、理化学研究所(以下、理研という。)横浜キャンパス(横浜市鶴見区末広町)では、私たちの生存の基盤である生命と環境に関する研究を行うとともに、研究成果の普及や地域との連携にも取り組んでいます。

昨年の12月9日、その活動の一環として、理研の研究内容や活動について知っていただき、理研と企業との連携の糸口を見つけていただくことを目的に、理研、神奈川県、横浜市等が共同で、「企業版サイエンスカフェ」を開催しました。

第2回目の開催となった今回は、理研研究者の近藤直人氏により、「ゲノムとゲノム関連ビジネス」をテーマとした講演をサイエンスカフェ形式(飲み物を片手に研究者と気軽に語り合える形式)で行い、所属されるライフサイエンス技術基盤研究センターの紹介や様々な「ゲノム関連ビジネス」についての話の後、参加者との質疑応答もありました。



サイエンスカフェの施設見学の様子

また、昨年度に要望の多かった理研横浜キャンパス内のゲノムの解読を行っている次世代シーケンサー施設と分子構造を解析するNMRを備えた研究施設の見学も行った他、行政の中小企業支援施策や、理研の産業連携活動の紹介等も行いました。

神奈川県では、今後も理研と企業との連携を推進していきます。理研の事業内容は下記ホームページでご覧いただけます。

(理研ホームページ)

<http://www.yokohama.riken.jp/>

問い合わせ先 / 神奈川県政策局自治振興部地域政策課 大橋 電話:(045)210-3255

## 最先端医療研究機関

### ナノ医療イノベーションセンターのご紹介

神奈川県では、横浜市・川崎市とともに、平成 23 年 12 月に国に指定された「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区」により、京浜臨海部に集積する産業基盤等の地域資源を最大限に活用しつつ、グローバル企業が先導して医薬品・医療機器産業を活性化させ、国際競争力の向上、関連産業や中小企業等への波及効果を引き出し、経済成長とライフイノベーションの実現に向けた取組を推進しています。

その中でも、現在の世界的な企業や研究機関が続々と進出している川崎市殿町地区で、難病治療に革新をもたらす「ナノ医療」の実現に向けて、大学・企業・研究機関が共同で研究開発に取り組む新たな拠点として、平成 27 年 4 月より稼働したナノ医療イノベーションセンター(以下、iCONM という。)をご紹介します。当施設について、副センター長の岩崎廣和さんと管理部長の櫻井亨さんからお話を伺いました。

#### 施設概要について

iCONM 設立の経緯について教えてください。

「まず iCONM は、川崎市産業振興財団が事業実施主体として設立いたしました。平成 25 年 3 月に文部科学省の「地域資源等を活用した産学資源等による国際科学イノベーション拠点整備事業」の補助金の採択を受け、iCONM の建設がスタート。平成 27 年 1 月末に竣工、同年 4 月から運営を開始し、7 月にオープンセレモニーを行いました。また、平成 25 年 10 月には、文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構の「革新的イノベーション創出プログラム」の採択を受け、同財団が中核となって「スマートライフケア社会への変革を先導するものづくりオープンイノベーション拠点」として研究開発を進めています。」



iCONM の施設全景

どのような施設なのでしょう。

「iCONM は、いわゆる貸しラボとは違い、[京浜健康コンビナートの中核として、市民の誇りとなり、夢を叶える医療技術を次々と発信する、世界で最もイノベティブな拠点を目指す]というビジョンを共有していただける方に入居していただく施設になっています。施設の大きな特徴は、クリーンルーム・合成実験室・生化学実験室・ヒト疾患モデル実験室がひとつの建物に入っていることです。これらの機能が一つの建屋に入っているのは、日本ではここだけです。ここに入居することにより、こういった施設、機器が使えることに加え、色々な大学・企業の先生・研究者など、多様な方と交流することで新しい発想を生むことができると思います。」

#### 研究内容について

研究内容について教えてください。

「「体内病院」の実現を目指しています。これはウイルスサイズの“スマートナノマシン”を体内に送り込み、これが体の中を巡回し、悪い部分を治療してしまおうというものです。重要なテーマの1つが、がん細胞だけを狙い撃ちするナノマシンの開発です。現在のがん治療法は、正常な細胞にもダメージを与えるため、髪が抜けてしまったり、体調を崩したりといった副作用を起こす原因になっています。現在、開発しているのは、抗がん剤を搭載したナノマシンを体内に送り込み、がん細胞だけを狙い撃ちするというものです。これが実現すれば、入院期間も短く副作用もほとんど出ない状態で治療ができるようになるでしょう。他にもアルツハイマー病等の脳神経疾患の治療技術の開発も進めています。」

こういった研究を進めることにより、人々が困っている、がんやアルツハイマーという病気を、副作用もなく通院せずともきちんと治せるような社会を目指しています。10 年後には、こういった治療技術のいくつかが普通に使えるようにしていけると期待しています。」

京浜臨海部に立地するメリットはどんなところでしょうか。

SF の世界を現実化



スマートナノマシンイメージ図

「iCONM のビジョンのところで「京浜健康コンビナート」の話はしましたが、これまで京浜工業地帯と呼ばれてきたこの地区には、いまだにしっかりとした企業が残っています。こういった日本の推進力となるような企業が身近にあることがメリットです。また、優秀な中小企業が、川崎市内や対岸の大田区にも多く立地しています。これは、新しい技術を開発するにあたり重要なことです。」

また、川崎市には、川崎商工会議所・川崎市工業団体連合会・川崎工業振興倶楽部等の企業団体が組織され、大きな地盤があります。市民の方も、工業・産業に対してとてもご理解があり、暖かな目で見守ってくださっていることも素晴らしいところだと思います。さらに、市内にレベルの高い病院が多数あるので、当施設で生み出された多くの治療技術を活用いただける施設と人材が、多いこともメリットだと思います。」

読者に向けて PR 等があればお願いします。

「この iCONM から、医工連携・オープンイノベーションを通じて難治がん、アルツハイマー病等の治療技術を次々と開発し、発信していきますので、応援していただきたいと思えますし、期待してください。」

また、我々と共同研究したい方は大歓迎です。」



施設内で研究者同士が交流できるマグネットエリア

問い合わせ先 / 神奈川県政策局自治振興部地域政策課 大橋 電話：(045)210-3255  
(iCONM のホームページはこちら <http://www.kawasaki-net.ne.jp/iconmintroduction.html>)

## 羽田空港で次世代型ロボットを導入！広がるロボット活用法！



次世代型ロボット“HAL”

今回は、羽田空港の最新情報として、空港内での次世代型ロボットの運用開始について、お伝えします。

日本空港ビルディング株式会社は、平成 27 年 9 月 30 日から羽田空港国内線旅客ターミナルで次世代型ロボットの運用を開始しました。運用を開始した次世代型ロボットは、CYBERDYNE（サイバーダイン）社のロボットスーツ“HAL”と搬送用・清掃用ロボットです。“HAL (Hybrid Assistive Limb)”とは、身体機能を改善・補助・拡張することのできる世界初のサイボーグ型ロボットであり、身体に装着することで身体の不自由な方をアシストしたり、いつもより大きな力を出したり、さらに脳・神経系への運動学習を促すシステムになっています。これは、バスへの荷物の搬入・搬出作業に使用されています。また、搬送用・清掃用ロボットとして、地下倉庫間における荷物搬送に搬送ロボット 3 台、空港内における清掃にクリーンロボット 5 台を導入しました。

両社は、運用を開始する約 3 ヶ月前の 7 月 2 日に、羽田空港旅客ターミナルビルへの次世代型ロボットの導入等に関する基本合意書を締結し、8 月から実装実験を行い運用時期などを検討していました。このロボット活用の目的として、業務の効率化や空港従業員が健康的で働きやすい環境をつくることのほか、羽田空港から日本の先端技術を発信するねらいもあるとのこと。また両社は、今後、ロボットの導入効果を検証し、対象作業やエリア等の拡大を図っていくとのこと。

ロボットの導入が進んでいけば、空港で次世代型ロボットを間近で見ることができるといった新たな名物が生まれるかもしれません。空港に行かれた際にはぜひ探してみてください。



清掃用ロボット

問い合わせ先 / 神奈川県政策局自治振興部地域政策課 大橋 電話：(045)210-3255

### 編集・発行

神奈川県政策局自治振興部地域政策課 担当：大橋 〒231-8588 横浜市中区日本大通 1

電話 (045)210-3255 ファクシミリ (045)210-8837

ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/div/0602/>